

V 考察

①独居高齢者などへの生活支援の充実

【調査結果】

- ・65歳以上の高齢者の世帯状況は、単身が17.6%、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）が40.8%となっており、合計で58.4%に及んでいる（問1（1））。なお、前回（平成28年）の同設問では、単身が15.7%、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）が38.6%、合計は54.3%であった。前回調査と比較すると、独居高齢者は増加している。

【考察】

- ・独居高齢者は増加傾向にあり、今後もさらに増加するものと見込まれる。独居高齢者が安心して生活できるよう、現在秋田市が行っている「緊急通報装置の貸出し」「食の自立支援事業」「高齢者雪寄せ支援」などの既存サービスを継続し充実させることが求められる。また、継続的に具体的なニーズの把握に努め、全国の安否確認などでの成功事例なども参考とすることで、安心を確保できるよう地域での「見まもり」を更に発展させることが必要と考えられる。

②介護予防活動の取組

【調査結果】

- ・一般高齢者であっても、うつ傾向や転倒のリスクは該当者2～3割台と高い状態にある。（リスク判定・分析）
- ・「地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか」の問では、「是非参加したい」（8.7%）と「参加してもよい」（45.9%）の合計（『参加したい』）は54.6%と5割を超えている。一方、「参加してもよい」が32.0%、「既に参加している」3.8%、「是非参加したい」が2.2%と、肯定的意見は4割弱となった（問5（2））。なお、前回（平成28年）と比較すると、同設問の全体は『参加したい』は62.5%となっており、7.9ポイント低下している。
- ・「あなたが地域活動に参加するとき、支障になること（参加しないまたは参加できない理由）は何ですか」の問では、「特に支障・理由はない」は30.0%で最も高く、次いで「興味のもてる活動がみつからない」（17.1%）、「きっかけがない」（17.0%）となっている（問5（3））。

【考察】

- ・一般高齢者であっても、転倒やうつ傾向のリスクは高くなっており、自ら介護予防に取り組んでいくことが大切である。地域の身近な活動に参加することは有効な介護予防とされている。秋田市では半数以上の人々が地域の活動に参加したいと考えており、このような場や取組をより一層整備、支援していくことが必要と思われる。また、前回調査より、地域の活動に参加したいと考えている人は少なくなっていることから、住民運営の通いの場を充実させることが求められる。
- ・また、地域活動に参加するとき支障になることは、「特に支障・理由はない」を除くと「興味のもてる活動がみつからない」、「きっかけがない」が多くを占めていることから、対象者に地域活動の情報を届け、社会との接点を持ち続けるため、高齢者のニーズを踏まえた多様なグループ活動の場の創設に繋がる施策が必要であると考えられる。

③認知症高齢者への支援の充実

【調査結果】

- ・認知症の知名度は、「どのような病気か、ある程度は知っている」が72.5%、「どのような病気か、詳しく知っている」が14.6%となっており、合計で9割弱となっている（問8（1））。
- ・認知症に関する相談窓口の認知度は3割強となっている（問8（3））。

【考察】

- ・認知症の知名度は9割弱と高くなっている一方で、認知症に関する相談窓口の認知度は3割強にとどまっていることから、相談窓口を設置するだけでなく、相談窓口の認知度を高めていく工夫が求められる。

④生きがいづくりや社会参加の促進

【調査結果】

- ・「生きがいあり」が58.6%、「思いつかない」が34.6%となっている（問4（18））。
- ・「閉じこもり傾向」の該当者は一般高齢者で18.8%、要支援認定者で47.4%となっている（リスク判定・分析）。
- ・「うつ傾向」の該当者は一般高齢者で37.8%、要支援認定者で52.6%となっている（リスク判定・分析）。
- ・前回との比較では、一般高齢者、要支援認定者ともに「うつ傾向」の該当者は少なくなっている。しかし、他のリスク項目は前回調査より増加傾向にある（リスク判定・分析）。

【考察】

- ・「閉じこもり傾向」、「うつ傾向」のリスクを軽減していくためには、地域活動や社会活動への参加、生きがいづくりを促す取組が必要と考えられる。特に、生きがいが「思いつかない」と回答した人は3割半ばを占めており、彼らのニーズや専門性を把握し、働ける年齢ならば就労機会の提供や特性を活かしたボランティア活動の場の創設・提供など社会参加を促進していくことが今後の課題と考えられる。なお、前回との比較では「うつ傾向」の該当者は減少傾向にあることから、現在取り組んでいる施策が成果を上げていると考えられる。

また、「閉じこもり傾向」、「うつ傾向」の該当者は要支援認定者でかなり高くなっており、特に支援が必要と考えられる。

⑤住民主体の支え合い活動の取組

【調査結果】

- ・「地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか」の問では、「是非参加したい」と「参加してもよい」の合計は5割を超えている（問5（2））。
- ・ボランティアのグループに『参加している』（頻度に関わらず参加しているを合算）は全体で10.0%程度にとどまっている（問5（1）①）。
- ・愚痴を聞いてくれる人は、「配偶者」が52.7%と最も高く、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」33.8%、「別居の子供」33.2%、「同居の子供」20.2%と家族・親族が高い傾向を示すのに対し、「近隣住人」は10.1%に留まり、「そのような人はいない」が4.3%となっている。また、年齢が上がるにつれて「友人」の割合が半減している（65～69歳：52.7%→85歳以上：21.5%）（問6（1））。
- ・看病などしてくれる人は、「配偶者」が59.6%と最も高いが、若い世代ほど「配偶者」が助け合いの相手となっており、年齢が上がるにつれて減少しており、「同居の子ども」の割合が増加傾向にある。また、「近隣」は1.3%に留まった（問6（3））。
- ・「家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください」の問では、「そのような人はいない」が36.4%と最も高く、65～74歳の年代で4割以上となっている（問6（5））。

【考察】

- ・住民主体の支え合い活動では「参加者として参加する」場合では、半数以上は「是非参加したい」または「参加してもよい」と回答している一方で、「企画・運営（お世話役）として参加する」場合では半数以上が「参加したくない」と回答しており、またボランティア活動にも1割程度の参加状況となっている。高齢者が地域の支え手として、企画・運営（お世話役）やボランティア活動に参加したい人が増えるように、高齢者の特性を把握し活躍の場が与えられるような多様な活動の場の創設が必要と考えられる。
- ・愚痴の聞き役や看病の担い手として、「近隣」の割合は家族・親族に比べて割合が低く、核家族化やプライバシーの尊重に伴い、地域とのつながりや支え合い機能が低下していると見られる。高齢者が生活するうえで困っているニーズを把握し、地域が主体となってアイデアを持ち寄り、課題に取り組んでいく機会が求められる。

⑥在宅医療と在宅介護の連携推進

【調査結果】

- ・「あなたやあなたの家族は自宅で最期まで過ごすことができるか」に対して、「困難である」は26.4%となっており、「可能である」の12.0%の2倍以上となった（問7（11））。
- ・上記で「困難である」と回答した人に、「自宅で最期まで過ごすことが難しいと思う理由」と伺ったところ、「介護する家族に負担がかかる」が63.9%と突出して高い。また、次点では「症状が急に悪くなったとき、どうしたらよいか不安がある」が45.8%、「症状が悪くなったときに、すぐに病院に入院できるか不安がある」が42.6%となっている（問7（12））。

【考察】

- ・多くの高齢者が在宅での生活を継続していくためには、介護する家族の存在や軽減負担を視野にいたしたサービスの拡充が必要と考えられる。
- ・また、多くの人は自宅で症状が悪くなった際に不安を抱えていることから、高齢者が在宅での生活を継続していくためには医療と介護の連携を更に綿密にしていくことが求められている。

⑦主観的な状況について

【調査結果】

- ・主観的な経済状況を把握する「現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか」の間では、「やや苦しい」「大変苦しい」との回答が4割弱を占めているが、介護区分や圏域での大きな差は見られなかった（問1（3））。
- ・一方で、主観的な健康状況を把握する「現在のあなたの健康状態はいかがですか」の問い、主観的な幸福感への「あなたは、現在どの程度幸せですか」の問いでは、要支援認定者は一般高齢者よりも低い傾向にある。（問7（1）（2））。

【考察】

- ・主観的な経済状況について、「大変苦しい」「やや苦しい」と回答した要支援認定者の割合は一般高齢者を4.4ポイント下回っており、経済的支援は一定の範囲内で行き届いているものと考えられる。
- ・一方で、主観的な健康観や幸福感の数値では、要介護支援認定者は一般高齢者を下回っていることから、今後は、医療健康面や精神的部分での更なる支援が必要になると考えられる。